



石油化学工業協会 JPCA（略称：石化協（せっかきょう））

「石化協ニュースレター」〈第9号〉 2015年1月

◆ 目次

- 1 はじめに
- 2 石化協会長年頭所感（浅野敏雄 旭化成(株)社長）
- 3 石油化学工業協会の産業保安に関する活動状況報告
- 4 石油化学工業協会広報活動報告
- 5 アジア石油化学工業会議 (APIC2015) の開催について
- 6 編集後記

東日本大震災により被災されました皆さまには心からお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

1.はじめに

関係の皆さまにおかれましては、当業界を含め化学工業界全般へ日頃の活動に対するご理解、ご協力、ご支援誠にありがとうございます。新年を迎え、石油化学工業協会よりニュースレター第9号を配信させていただきます。

以下、当協会会長の年頭所感、および当協会の最近の新たなトピックスについて掲載いたしますのでご高覧下さい。

2. 石化協会長年頭所感（浅野敏雄 旭化成㈱社長）



最近の我が国の経済をみますと、個人消費などに弱さがみられるものの、緩やかではありますが回復基調が続いていると考えられます。こうした中、安倍総理は消費税率10%への引き上げを1年半延期するとともに衆議院の解散を行い、12月の選挙の結果与党が勝利を収めたところであります。

我が国は、経済再生や財政再建など多くの課題を抱えており、政府におかれては、これらの解決に向けた将来への道筋を示し、その上で積極的な経済対策等を実行していただきたいと思えます。

さて、我が国石油化学業界をみますと、石油化学製品需要も回復の兆しがみえてきました。特にエチレン設備の稼働率は2011年10月以降連続2年2か月に亘り90%を下回っておりましたが、緩やかな需要回復、アジア市況の改善等により、一昨年12月以降は90%超を維持してきております。今後とも、景気が腰折れすることなく需要の安定拡大基調が継続することを期待いたします。

このような状況下において、当協会としては時代の流れを先取りしつつ、将来の持続的発展に向けた業界共通の課題解決のために、本年においては、以下の項目について重点的に取り組んでまいりたいと思えます。

一点目は、何と言っても保安・安全への取り組みです。

「保安・安全の確保」は、石油化学産業として事業を運営していく上で、最も重要な基盤であることはいまでもなく、当協会としても、事業計画の最重要事項として「産業保安に関する行動計画」をまとめ取り組んできております。

近年重大事故が連続した状況に鑑み、2012年から開催した「保安トップ懇談会」に続いて、一昨年から昨年にかけ「保安トップセミナー」を開催し、さらに本年は経営トップによるビデオメッセージの作成を計画しております。

業界の経営トップが保安・安全意識の確保に強くコミットするとともに、セミナー等を通

じて過去に起こったトラブル、事故の原因を共有し、技術レベルや保安・安全への意識をこれまで以上に高めてまいる所存です。

また、保安・安全の確保についての従来からの取り組みとして開催している保安推進会議、事件事例巡回セミナー等を継続して開催することにより現場レベルのトラブル情報、経験や保安の取り組みに関する情報の共有化、互いの感性の向上等を図り、安全文化の確立のための学習伝承や動機付けを中心とした取り組みを推進してまいる所存です。さらに、自然災害による産業被害の発生防止に向けて高圧ガス設備の耐震補強が重要なテーマとなっておりますので、政府の指導及び支援を頂きながら必要な対策を着実に進めていくことが必要であると考えております。

二点目は、国際競争力強化のための事業基盤の整備への取り組みです。

事業基盤の整備として主に、「イコルフットィング」及び「地球環境問題への対応」等に取り組むたいと考えております。

経済社会のグローバル化がますます進展する中で石油化学産業の国際競争力を強化していくためには、企業活動を律する諸々の税制・規制の面での平準化、いわゆる「イコルフットィング」が極めて重要であると認識しており、引き続き積極的に取り組んでまいります。

また、「地球環境問題への対応」については、地球温暖化対策として、2014年末にリマで開催されたCOP20、2015年パリで開催されるCOP21などの動きに対し、経済産業省や一般社団法人日本化学工業協会等とも連携し、石油化学産業として地球環境保全への役割を果たしてまいる所存です。

さらに、今後も高い成長が見込まれ世界経済をけん引するであろう重要な市場であるアジアは、石油化学産業にとっても生産、投資、貿易、販売の拠点として今後とも大きな成長が見込まれる地域です。これらアジア地域の石油化学関連企業が相互にコミュニケーションを図りその健全な発展に貢献するための場として、毎年、アジア石油化学会議（APIC）が開催されておりますが、本年は韓国での開催予定となっており、当協会としても成功裏に開催されるよう協力してまいる所存です。

三点目は、コミュニケーションの推進への取り組みです。

米国におけるシェールガス革命等の影響により、世界の石油化学産業の地図が書き換えられようとしている中、グローバル化の波は、製造拠点やマーケットにとどまらず、研究開発や技術開発等、高度な領域にも及んできております。

当協会としては、このようなグローバル化に対しても国内外の関係先とのコミュニケーションを通じて、環境変化の一層の把握に努め、日本の石油化学産業が国際競争力を高め、持続的成長を図っていくための議論を深めてまいりたいと考えております。

さらに、一昨年末から昨年始めにかけて、新しい石油化学に代わる相応しいネーミングを募集した結果「循環炭素化学」に決定しました。その後ロゴマークも決定し、本年はこれら

について普及・啓発活動をさらに進めてまいる所存です。

最後に、以上三点とは別に、一言触れたいと思います。

昨年11月に経済産業省から産業競争力強化法第50条に基づく調査結果が発表されました。

石油化学産業が今後も基礎素材産業として持続的発展を遂げ、グローバルな競争力を強化していくための課題については我々も重要であると認識しており、各社においてもこの課題を踏まえ、経営判断に活用していく必要があるものと考えます。石油化学産業は、個別企業の自主的判断として、これまでも事業の再構築等を実施してきており、また、規模の最適化のみならず事業の高付加価値化へのシフト等も進めてきているところです。今後とも自主的判断のもと、更なる改革を進めていくことが重要であると考えております。

政府におかれましては、本調査結果を踏まえ、規制緩和、補助金などを含む国の支援策等により企業活力を最大限発揮できるよう、企業の自主性を尊重しつつ、事業環境の整備を進めて頂きたいと考えております。

石油化学業界としては、環境保全、地域社会との共存共栄を図りつつ、国民生活に不可欠な基礎材料としての石油化学製品の安定供給を図ることが使命であるとの認識に立ち、明るく希望に満ちた社会の実現に向けて日々努力を続けてまいります。当協会はこのような視点に立ち、これまで述べた取り組みを重点に置きつつ、会員各社がそれぞれの事業の発展に向けて抱える共通の課題の解決のため、より良いサービスの提供に努めてまいる所存であります。

今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

締め括りとして、日本経済の着実な回復と更なる発展を願うとともに、会員各社の益々のご発展とご健勝を祈念し、新年のご挨拶と致します。

3. 石油化学工業協会の産業保安に関する活動状況報告

石油化学工業協会は2014年6月27日に「産業保安に関する行動計画」を公表しましたが、これを受けて当協会は同年7月以降、以下の通りの産業保安に関する活動を致しました。

7月10日 消防庁 消防大学校の危険物科（第9期）にて石油化学工業協会の保安への取り組みについて講義をした

7月25日 経産省化学課経由で石炭石鉱業協会から依頼があり、石油化学工業協会の保安への取り組みに関する講演をした

8月27日 岡山県倉敷市水島にて第11回事故事例巡回セミナーを開催した

9月25日 東京・赤坂にて第32回保安推進会議および第6回保安表彰式を開催した



第6回保安表彰式

10月7日 産業安全論を開講（2月3日まで年末年始を除く毎週火曜日に講義（全15回）した（本講義開講は今年で3年目）



第1回産業安全論

- 1 1月4日 1 1月5日の津波防災の日に因み講演会を開催した
- 1 2月1日 公益財団法人総合安全研究所の機関誌S E（セイフティーエンジニアリング）に石油化学工業協会の保安への取り組みを寄稿した
- 1 2月5日 安全工学研究発表会（於：産業総合技術研究所（筑波））にて石油化学工業協会の保安への取り組みを発表した
- 2月16日 第12回事故事例巡回セミナーを開催予定（於：大分地区）

4. 石油化学工業協会広報活動報告

・リーフレット『循環炭素化学』って、なあに？』の発行

昨事業年度に展開した“新しい化学”にふさわしいネーミング公募キャンペーンでは最優秀賞に「循環炭素化学」が選ばれましたが、そのネーミングとコンセプトを広く一般や学生、業界関係者の皆様に理解して頂くことを目的としたリーフレットを昨年10月に作成しました。詳しくは当協会ホームページ新着情報をご参照下さい。

<http://www.jpca.or.jp/20141030news.htm>

・セミナー「“循環炭素化学”を語ろう！」開催

「循環炭素化学」の普及・啓発を目的に昨年11月に下記要領にて開催、盛況裡に終了しました。

1. 日時 2014年11月21日（金）15:00～17:30
2. 場所 安田コミュニティープラザ（東京都千代田区）
3. 参加対象 石油化学工業協会会員及び関連団体、マスコミ他
4. 参加者 100名程度
5. セミナー内容

(1) 基調講演：

①三菱化学(株) 瀬戸山亨 執行役員 フェロー

「21世紀の世界、化学産業が直面する課題と循環炭素化学の役割」

②(株)クラレ 井出章子 IR・広報部長
「ミラバケツ」の夢」

(2) パネルディスカッション

コーディネーター：一橋大学 大学院商学研究科 橋川武郎 教授

パネリスト : (一財)日本経済研究所 鍋山徹 専務理事・
地域未来研究センター長
経済産業省 製造産業局 茂木正 化学課長
法政大学 経済学部 化学研究室 山崎友紀 教授
石油化学工業協会 浅野敏雄 会長

詳細は当協会ホームページ新着情報をご参照下さい。

<http://www.jpca.or.jp/pdf/20141128seminar.pdf>

・冊子「石油化学工業の現状2014年」の発行



12月に「石油化学工業の現状2014年」(A4横63ページ)を発行しました。

この「石油化学工業の現状」は、当協会創立3周年目に当たる1961年に初版を発行し、以来ほぼ毎年発行され、幸いにも今日まで皆様方に“石油化学産業に関する基礎データ集”として幅広くご活用頂いております。さらに東日本大震災後は、広範な製造業のサプライチェーンの川上に位置する化学産業の構図把握のための資料としても各方面でご活用頂いております。また本冊子では日本の石油化学産業の再編状況や当協会会員企業の海外での主要石油化学製品の生産品目についてもわかりやすく解説しております。

入手ご希望の方は当協会ホームページ刊行物案内をご参照下さい。

<http://www.jpca.or.jp/65publish/genjou.htm>

5. 2015 年アジア石油化学工業会議 (APIC 2015) の開催について

今年のアジア石油化学工業会議はKorea Petrochemical Industry Association (KPIA)の主催で韓国のソウルでの開催となります。

この会議はアジアのみならず世界の石油化学産業関係者の有益な情報交換の場となりますので、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

開催日時：2015年5月7日(木)～8日(金)

開催都市：韓国・ソウル市

開催場所：COEX Convention Center & Intercontinental Seoul COEX

テーマ：“Turning Threats into Opportunities for Asian Petrochemical Industry”

* 詳細は石油化学工業協会ホームページ<http://www.jpca.or.jp> のトップページにあるこちらのAPICのバナーをクリックしてご確認願います。



6. 編集後記

年明けの賑わいも落ち着き、1月も終わりに近づき来年度の予算編成等の通常業にいそむ時期となりました。

世の中ではイスラム過激派による仏の新聞社襲撃事件や日本人人質事件等の人々を震撼させる出来事が起こっており、激動の年明けとなってしまいました。

ここでは、ちょっと他に目を向けて最近読んだ本のことについてご紹介したいと思います。イギリスの新聞デイリー・テレグラフの東京特派員の書いた「「ニッポン社会」入門」(コリン・ジョイス、NHK出版)という本です。長年日本に暮らす英紙記者がユーモアを交えて展開する日本文化論になっています。作家の塩野七生さんが月刊誌で推奨したこともあり、売れ行きが加速され、昨年のベストセラーにも入った模様です。

随所に思わず声を出して笑ってしまう場面があり、なるほどと思わせることが少なくありません。

一部をご紹介しますと、

- ・歌舞伎は歌舞伎町でやっていない。
- ・日本の「パブ」はパブではない。

著者のお気に入り日本語表現ベストスリーは
① おニュー、②上目遣い、③勝負・・・
とのことです。ご興味のある方はご一読を。(Y. A)

ニュースレターに関するご意見・ご要望はこちらまで
アドレス：inquiries_hp@jpca.or.jp

配信中止・登録内容の変更はこちらまで
アドレス：inquiries_hp@jpca.or.jp

石油化学工業協会 総務部

〒104-0033 東京都中央区新川 1-4-1 住友不動産六甲ビル

TEL. 03-3297-2011

Fax 03-3297-2017

URL：<http://www.jpca.or.jp/>

